

浅井薬局における内服抗がん剤服用患者への対応の現状と今後の取り組みについて

～内服抗がん剤服用患者のQOLをよりよくするための薬薬連携に向けて～

平成30年3月3日

浅井薬局 橋店

山洞 直樹

内容

- 患者さんに安心・安全な治療を継続してもらうために
- 薬局で内服抗がん剤の処方箋を受け取るということ
- 浅井薬局橋店での対応の現状と今後
- 施設間情報連絡書について

安心安全な治療のために

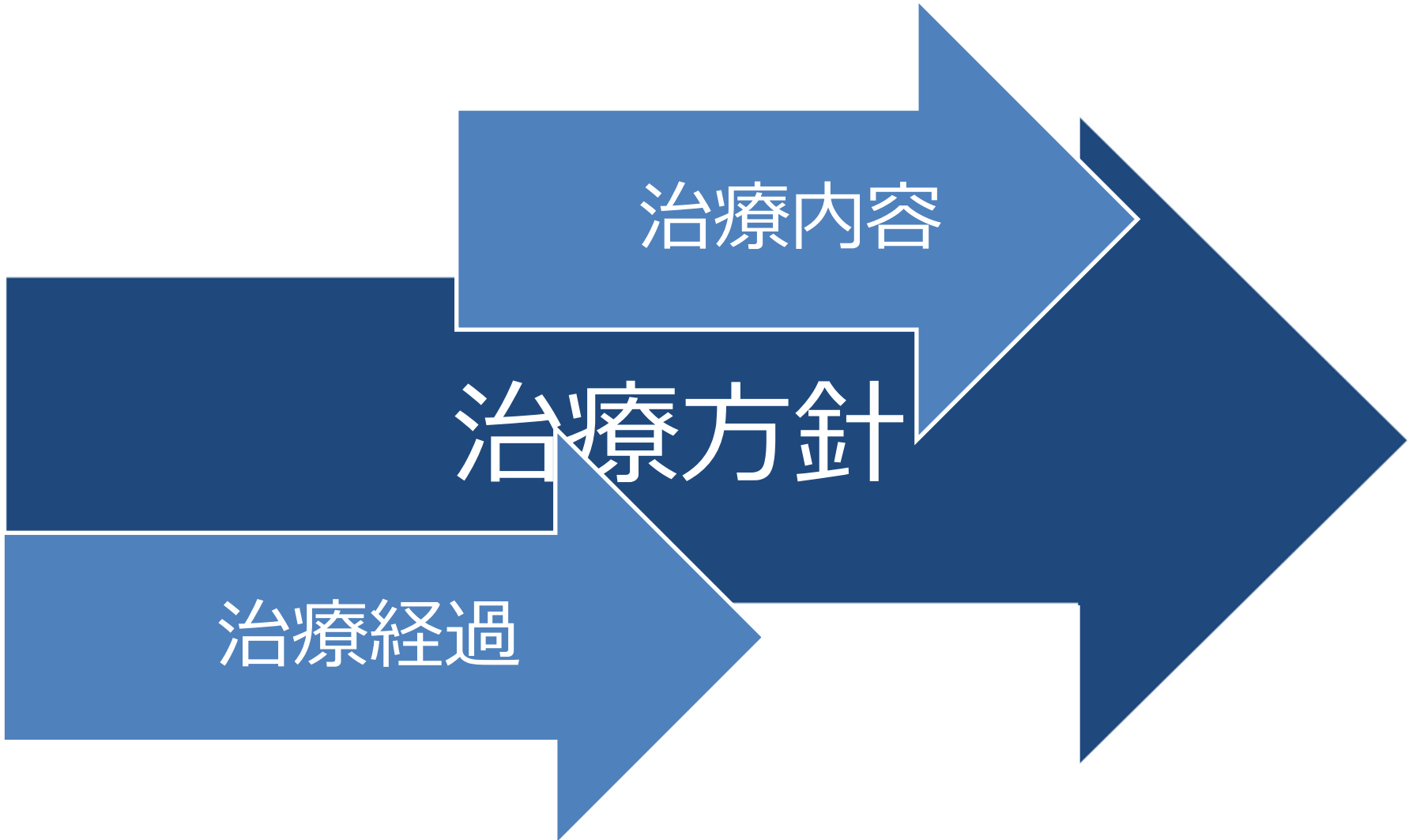
- 投与量、投与スケジュールのチェック
 - 用法用量は適正か（体表面積、腎機能）
 - 投与日数は適正か（レジメン○投□休）
- 経口抗がん剤の服薬指導
- 支持療法の服薬指導
- アドヒアランス、副作用のチェック

必要な情報

治療内容

治療方針

治療経過



内容

- 患者さんに安心・安全な治療を継続してもらうために
- 薬局で内服抗がん剤の処方箋を受け取るということ
- 浅井薬局橋店での対応の現状と今後
- 施設間情報連絡書について

院外処方箋事例

70代 女性

外科

R p.1 ティーエスワン配合OD錠 T 25 4錠
1日2回朝夕食後 28日分

➤ ティーエスワン初回処方時

「肝臓がん」とがん種を聴取。

投与スケジュールは4投2休であることも聴取。

経緯：注射の治療は効果なく内服に切り替えに。

院外処方箋事例

初回処方から2週間後

R p . 1	プリンペラン錠 5	1 錠
	吐き気時	20 回分

- 次回来局時、臨時処方のみ。服薬指導時に、「良性の胆管の腫瘍」と聴取。病名が変わった！
対応した薬剤師は、患者への告知の有無がわからなくなり、踏み込むことを躊躇をした。

必要な情報

➤ 治療方針・内容

- がん種
- レジメン（投与スケジュール）
- オペの有無
- 注射の併用の有無
- 体表面積、腎機能の臨床検査値

治療内容の安全性を確認

➤ 治療経過

- 告知の有無（どのような説明を受けている）
- 他疾患の有無（ex. 認知症）

経過、告知を意識した指導

情報共有することで安心安全な治療へ

内容

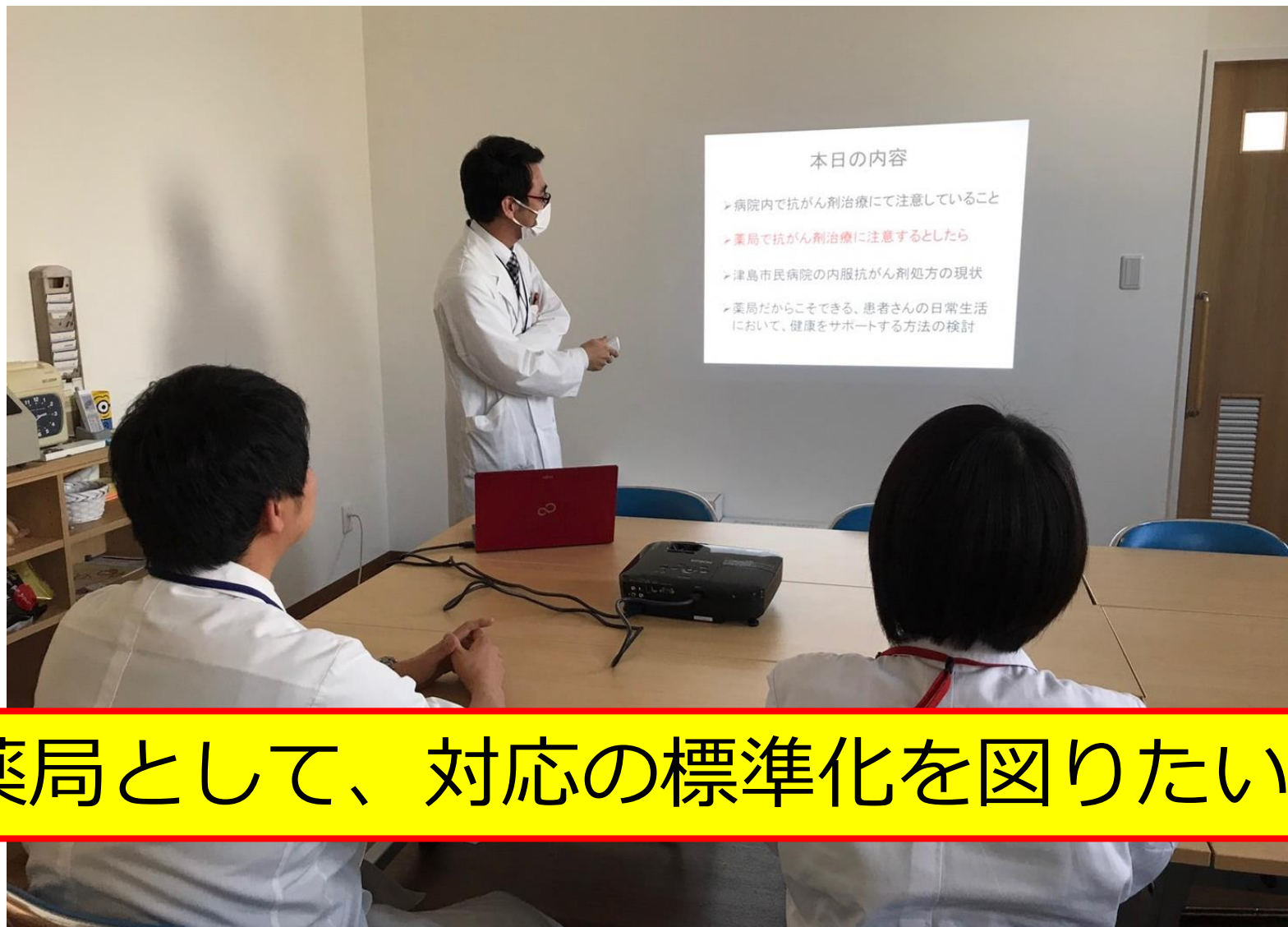
- 患者さんに安心・安全な治療を継続してもらうために
- 薬局で内服抗がん剤の処方箋を受け取るということ
- 浅井薬局橋店での対応の現状と今後
- 施設間情報連絡書について

浅井薬局橋店での対応事例

- 身長体重を口頭で確認、体表面積を計算して、投与量が適正であることのチェック。
- 治療の継続中に、体重が減ってきていることを聴取。投与量の変更が必要になる可能性を考え、「医師に伝えてありますか。」と確認。
- あまりにコンプライアンスが悪いことが発覚。担当医に情報提供した。

これらの対応事例は個々の薬剤師が、
個々の力量の範囲で行っていた。

薬局内勉強会の開催



薬局として、対応の標準化を図りたい。

薬局内勉強会の開催

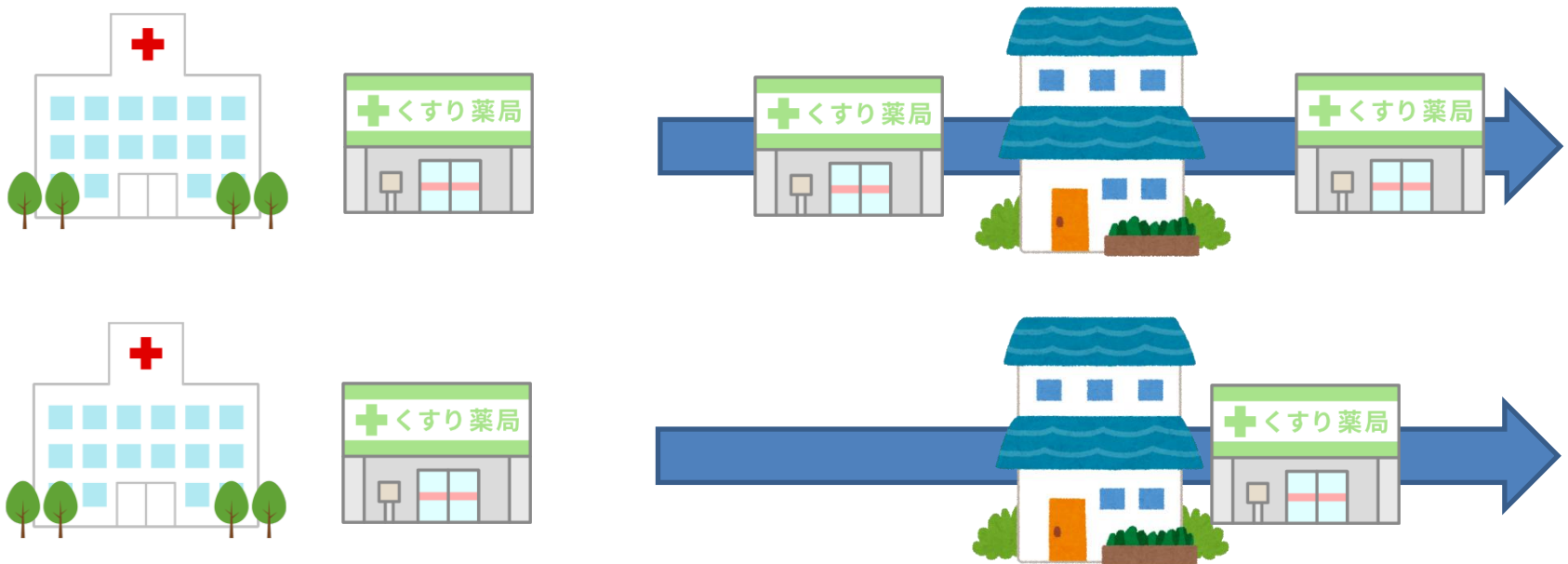
- 個々の対応した事例の情報共有
- 印象に残った事例の情報共有
 - 副作用による休薬で「よかった。」と言われた。
- 今後の勉強会について
 - 副作用の対処法などの勉強会を開催したい。
 - がん治療に対する、知識・経験が不十分なため、病院でどのような治療が行われているのか勉強したい。

薬局内勉強会の開催

- 患者さんのQOL向上のための今後の取り組みについての検討
 - 来局時の体重、体組成の測定。
 - 倦怠感、消化器症状などの副作用の抽出。
 - 食事の摂取状況の確認、補助食品の提案。
 - 患者への電話確認。
 - 副作用発現の有無、コンプライアンスの確認。
 - 日常生活で困っていることの相談。

日常生活における治療経過を確認。
この情報を病院、薬剤部にフィードバック。

患者さんの健康サポート



日常生活に寄り添うことで、
気軽に相談できる薬局に。

内容

- 薬局で内服抗がん剤の処方箋を受け取るということ
- 患者さんに安心・安全な治療を継続してもらうために
- 浅井薬局橋店での対応の現状と今後
- 施設間情報連絡書について

薬剤適正使用のための施設間情報連絡書（保険薬局→病院用）

平成 年 月 日

外来受診時に薬剤に関する情報収集が不十分であった患者を対象とし、保険薬局からの情報提供をお願いしています。

この連絡書により新たに判明する薬剤の内容によっては、速やかに主治医との協議が必要となる場合があります。

この連絡書を受け取られた保険薬局の先生方は、お手数ではありますが、下記項目を記載の上で、海南病院薬剤部（FAX:0567-66-1151）まで速やかに返信いただくよう、ご協力をお願いいたします。

※すべての欄に記入する必要はありません。必要と考えられる情報の欄のみご記入ください

ID	情報提供施設名:
患者氏名	住所:
生年月日	電話番号:
入院予定日	FAX 番号:
	担当薬剤師:

※当該患者さんの情報は、この文書とは別に以下のものもあります

お薬手帳 薬剤情報提供書 退院時服薬指導書

使用薬(一般医薬品、健康食品等も含む) → 医療機関(診療科・処方医/処方日(調剤日)/医薬品名/用法用量等

調剤上の留意点(粉砕・別包等) あり なし

()

副作用・アレルギー歴 あり なし 不明

()

服薬状況等

①服薬介助 自己管理 要介助→薬の管理・介助者()

②コンプライアンス 良 不良 ()

その他特記事項(処方目的、患者への服薬指導上で注意すべき事項等)

返信欄

受領施設名: JA 愛知厚生連 海南病院
連絡先: 0567-65-2511(代表)
FAX 番号: 0567-66-1151(薬剤部直通)

支援()担当者	確認日・確認者	返信日・返信者
	/ .	/ .

2017年5月海南病院作成

施設間情報連絡書

【基本的な情報】

服用薬、他科受診の有無、
調剤上の留意点、副作用
の有無、副作用の対策、
服薬状況

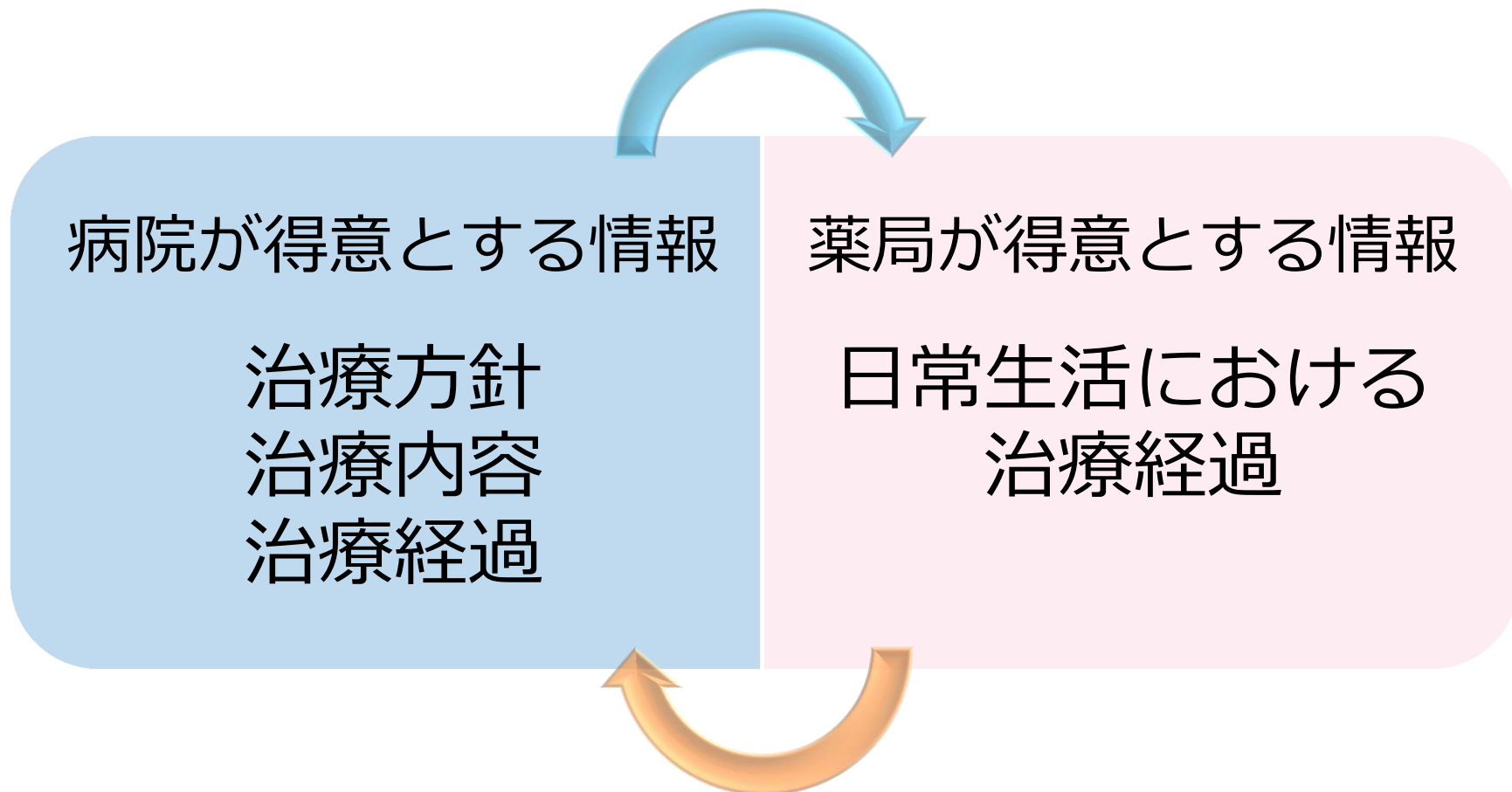
【特記事項】

がん種、告知の有無、
レジメン名（投与予定）、
抗がん剤の減量の有無、
頓服薬の指示内容、
今後注意が必要な症状、
緊急時対応が必要な症状
など

施設間情報連絡書

- 薬局への治療に関わる情報の連絡
 - 告知の有無の確認
 - 投与量のチェック
 - 患者さんの緊急時の対応の理解度の確認
 - より寄り添った服薬指導に
- 病院への日常生活における経過の返信
 - 日常生活での経過の共有
 - 治療への影響が考えられる背景の共有

相互の情報連絡が患者のために



患者さんにより寄り添うことができるのではないかと

まとめ

- 情報の少ない中、確認が出来る範囲で服薬指導を行っていた。
- 薬局勉強会を引き続き開催し、情報共有することで、対応の標準化を目指す。
- 薬をお渡しする服薬指導のときのみならず、患者さんの日常生活のサポートを積極的に行う。
- 施設間情報連絡書は、患者サポートに有用のため、相互連絡の文化を育てていくことが重要と考える。

患者のQOLをよりよくするための薬薬連携に